



◆海外市場調査の Web サイト『グローバルマーケティングラボ』もご覧ください。

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

----- WEEKLY NEWS -----

◆太陽電池材料：三井化学の透明ポリイミド用液状材料が超薄型有機太陽電池の基板に採用(5月31日)

三井化学は、新規開発品である透明ポリイミド用液状材料「エクリオス」が、理化学研究所、東レ、科学技術振興機構等のメンバーで構成される国際共同研究グループが新たに開発した、高い耐熱性とエネルギー変換効率を兼ね備えた世界初の超薄型有機太陽電池(以下、開発品)に採用されたことを発表した。

エクリオスは、耐熱性、耐薬品性、強靱性、寸法安定性に優れた無色・透明なポリイミド用液状材料で、ガラス代替の耐熱素材、フレキシブル回路基板、バインダーなど、次世代エレクトロニクス関連製品への展開が期待されている。

エクリオスは開発品の基盤層に使用されており、開発品の超薄型化(デバイスの厚み 3 μm)と耐熱性(100℃)の実現に大きく貢献している。また、開発品の大きな特長である性能劣化なく布地へ接着が可能で、透明性と柔軟性が保持され、接着面の意匠性が維持される点は、エクリオスの優れた機械強度、従来のガラス基板では成し得なかったフレキシブル性が生かされたものである。

これらの点から、ウェアラブルデバイス、災害時の非常用電源など、今後、様々な用途において、電源の応用に大きな貢献が期待されるとしている。

◆バイオ関連：住友化学が健康・農業関連事業研究所に新設した合成研究棟の稼働を開始(5月31日)

住友化学は、健康・農業関連事業研究所(兵庫県)内に新設した合成研究棟「ケミストリーリサーチセンター(Chemistry Research Center)」(以下、CRC)が

稼働開始したことを発表した。

CRC は、主に農薬や防疫薬のグローバルな研究開発のための創薬、イノベーション拠点として建設を決定したものであり、2018 年 4 月に竣工していた。

CRC には、先進的なスペース設計を取り入れた他に、これまで宝塚地区内外に分散していた新薬探索から工業化検討までの国内における有機合成研究機能を集約し、新薬の発明や製品開発を加速させていくとしている。

◆エンジニアリング: 東洋エンジニアリンググループがインドネシアで石油化学プラントを受注(5 月 31 日)

東洋エンジニアリンググループは、インドネシア最大の石油化学会社チャンドラアスリ・ペトロケミカルおよび同子会社ペトロケミア・ブタジエン・インドネシアから、ジャワ島の同社石化コンプレックス内に新設するブテン-1 製造設備(年産 4.3 万トン)、メチルターシャリーブチルエーテル(MTBE)製造設備(年産 12.7 万トン)と、石化コンプレックス全体のフレアシステム(最大毎時ガス処理量 220 トン)の建設プロジェクトを受注したことを発表した。

東洋エンジニアリングは一部設計とインドネシア国外での調達業務を、インドネシア子会社のイーカーペーターは設計、同国内での調達業務と建設工事一括を各々受注し、プラントの完工は 2020 年の予定としている。

◆フィルター: 日東電工が世界最大の膜面積 & 透過性を実現した油田採掘注入水用ナノフィルトレーション膜を開発(5 月 31 日)

日東電工は、油田採掘注入水用のナノフィルトレーション膜として、業界最高の硫酸イオン除去率 & 透水性を実現した新規ナノフィルトレーション膜(NF 膜)と、陸上油田採掘向けに業界最高の耐圧性を実現した NF 膜を開発したと発表した。

油田採掘では、自噴で回収できる原油は総埋蔵量の約 20%と言われており、海水や熱や炭酸ガス等を注入することで更なる原油回収を行っているが、海水中の硫酸イオンは、難溶性物質を発生させる他、バクテリアと反応して有毒ガスを発生する恐れがあり、注入前に膜分離で取り除く必要がある。中でも中東域の陸上油田採掘において、海水濃度が 5%と高く、夜間の気温が低いため、海上油田の 2 倍以上高い運転圧力エネルギーに耐えうる NF 膜が求められている。

日東電工では、これらのニーズを満たす NF 膜を開発し、「海上油田向け NF 膜(NANO-SW-LD MAX, NANO-SW ULTRA)」は従来比 35%薄の膜(従来品より 15%程度の膜充填率(膜面積)増と透水性増)で、水処理設備の省スペース化、省消費電力化でオペレーションコスト低減を実現し、「陸上油田向け NF 膜(NANO-SW HP)」は、中東域の陸上油田向け(海水塩分濃度; >5%)等で 4MPa

以上の運転圧力に耐える設計としている。

◆樹脂関連：三井化学とプライムポリマーがオランダに欧州初の PP コンパウンドの自社生産拠点を設立（5 月 30 日）

三井化学とプライムポリマーは、三井物産と共同で、自動車の軽量化に貢献するポリプロピレン（PP）コンパウンドの需要拡大に対応するため、オランダ Chemelot 工業区内に欧州初の自社生産拠点「Mitsui Prime Advanced Composites Europe B.V.」を設立したことを発表した。

新会社の資本金は 18.4 百万ユーロ（約 24 億円）であり、出資は三井化学 75%、プライムポリマー 10%、三井物産 15%である。生産能力は 30 千 t/年であり、2020 年 6 月に営業運転を開始する予定である。

同社では、オランダに欧州初の自社生産拠点を設立することで、欧州に製販研の一貫体制が整うことになり、欧州拠点の自動車メーカー、部品メーカーに対して、効果的な軽量ソリューションを提供するとしている。

◆ゴム関連：JXTG エネルギーと三洋化成工業が米国の ENB 製造装置の生産能力増強（5 月 30 日）

JXTG エネルギーと三洋化成工業は、米国の ENB（エチリデン・ノルボルネン）製造装置の生産能力を 40 千トン/年から 46 千トン/年に 15%増強することを決定したと発表した。

ENB は EPDM（エチレン・プロピレン・ジエン・メチレンリンケージ。耐熱性、耐候性に優れた合成ゴム）の製造に欠かせない成分である。

両社は、2007 年に日本に 1 系列、米国に 2 系列の生産体制を構築後、ENB の需要拡大に合わせ、既存装置の生産能力増強を進めてきた。2015 年には日本の製造装置の生産能力を 2 千トン/年増強し、米国の製造装置の生産能力を 2020 年までに 6 千トン/年増強することを決定した。これら一連の増強により、2020 年の生産能力は、日米合計で 68 千トン/年となる予定である。

また、2020 年以降拡大が見込まれる ENB 需要に対応すべく、さらなる能力増強、生産体制の拡充を図ることにより、ENB の安定供給の継続に努め、ENB 事業の更なる競争力強化を推進するとしている。

◆無機：日揮がアンモニア合成実証試験装置を完成、運転を開始（5 月 28 日）

日揮は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「エネルギーキャリア」のもと、産業技術総合研究と共同で研究を進めていた新規アンモニア合成触媒を用いたアンモニア合成プロセスの実証試験装置が完成し、運転を開始したと発表した。

現在、アンモニアの合成は、天然ガスを原料に、水蒸気と空気を用いて改質して得られる水素と窒素を高温・高圧の触媒反応でアンモニアに転換する「ハーバー・ボッシュ法」によって行われているが、この方法では天然ガスを改質して水素を製造する過程で大量のCO<sub>2</sub>を排出するため、水素エネルギーキャリアとしてのアンモニアの課題となっている。

同社は、これらの課題解決を目的として、SIP「エネルギーキャリア」研究の中で、2014年から『新規アンモニア合成触媒および再生可能エネルギーによる水の電気分解で得られた水素を原料としたアンモニア合成プロセス』の研究開発を進めてきた。新たなアンモニア合成触媒の開発成功を受け、福島県の産業技術総合研究所の敷地内に、本触媒を用いてアンモニアを合成する実証試験装置を建設し、実証試験（アンモニアの生産能力日量20kg）を開始した。実証試験は2018年末頃までの予定としている。

#### ◆価格改定

- ・JXTG エネルギーがベンゼンの契約価格を改定  
6月契約価格は、860 \$/t(前月比+10 \$/t)、国内価格換算想定値は98.8 円/kg
- ・日本ポリエチレンがポリエチレンを7月2日納入分より値上げ  
値上げ幅は、20 円/kg以上
- ・日本ポリプロがポリプロピレンを7月2日納入分より値上げ  
値上げ幅は、20 円/kg以上
- ・タキロンシーアイが塩ビ製品(雨どい、デッキ材、ぬれ縁)及びその他住設建材製品を7月1日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、10%以上
- ・フクビ化学工業が製品価格を7月1日受注分より値上げ  
値上げ幅は、取扱商品全般(下記を除く):10%、断熱材:20%  
樹脂製開口枠、浴室用樹脂製窓枠、防水部材は改定無し
- ・昭和電工が酢酸ノルマルプロピルを6月18日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、20 円/kg



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

- ◆メールの設定により、読み難くなることがございます。ご容赦ください。
- ◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

